

□佐藤 卓：キナバル山の植物 A4版, 128pp. 私費出版。頒価¥3,600 (送料共・国内価格)。

著者は青年海外協力隊員として、マレーシア国立大学で2年間、植物学を講じた。在任中から始めたキナバル山(4,101m)の植物調査を、帰国後も続けている。本書は同山の植生帯の解説と、植物写真を組み合わせたもので、すべて著者の作品である。

内容はキナバル山の植生帯、ラン、ジャクナゲ、ラフレシア、ウツボカズラ、山地林の植物、超塩基性岩地帯の植物、岩砕・岩盤地帯の植物の8章より成る。説明はすべて和文、英文の両方で書かれ、地質やルート目標を示す簡単な高度断面図に、それぞれの植物の産地が示されている。和名のない植物名は、プレスアイ・ラフレシアのように、中尾佐助氏の提唱する方式で与えられている。熱帯の山だけあって、3,000m以上の岩砕地帯や岩盤地帯に、日本となじみの植物が多いようにみえる。写真は接写を含めて非常に鮮明である。この地域の植物や植生の参考書・図鑑として立派なものであるが、事情あって私費出版となったのは惜しまれる。希望者は振替により右に送金されたい。金沢6-36342 佐藤卓。

This is to introduce "Flowers and Plants of Mt. Kinabalu" by Takashi Sato, consisting of 8 chapters, vegetation zones, *Rhododendron*, *Rafflesia*, *Nepenthes*, mountain forest, ultra-basic rock forest and plants of granitic boulder and rock face. It contains some 200 excellent color plates mainly of flowers with explanations in both Japanese and English. This book is recommended to be a nice botanical guide of Mt. Kinabalu and of tropical Asiatic mountains. A private publication to be obtained through Academia Scientific Book Inc., 2-39-6 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo 113. (金井弘夫)

□Pradhan U. C. : **Himalayan Cobra-lilies (*Arisaema*) : Their botany and culture** 96pp. 1990. Primulaceae Books, Kalimpong.

ヒマラヤ地域のテンナンショウ属植物についての入門書のかたちをとっており、ヒマラヤおよび

隣接する北インドに産する全種(25種)をまとめている。形態および利用、栽培に関する短い記述に引き続き、検索表があり、ついで各種についてノート、主要文献、記載、ヒマラヤ地域における分布図、白黒の写真および図が附されている。

前書きによれば、著者は *Arisaema pradhanii* C. E. C. Fischer の名のもととなった Pradhan 氏の血縁にあたり、園芸家ということであるが、内容は植物学的にみてもしっかりしている。また、現地ですべてに生きた植物に接していなければ見出せないような記述もある。Flora of Eastern Himalaya 第2巻に載っている Hara (1971) の論文を見る機会が少なく、ヒマラヤ地域のテンナンショウ属についての類書がない現在、この植物に興味のある方にはお勧めできる本である。なお Hara 以後の分類学的成果は取り入れられておらず、中国産の植物との関係についても言及されていないのは残念である。(邑田 仁)

□Engels J. M. M. et al. (ed.) : **Plant genetic resources of Ethiopia** 383pp. 1991. ISBN No. 0-521-38456-7. Cambridge University Press, Cambridge. \$85.00.

エチオピアは栽培植物の起源地の一つとして知られている。植物資源や遺伝子源保護の世界的趨勢に沿って、既に1976年に Plant Genetic Resources Centre/Ethiopia が設立され、ドイツの援助で活動している。いわゆる発展途上国の中では早い方だろう。1986年10月にエチオピアの遺伝子源の保護と利用についてのシンポジウムが、国内外から90名が参加して首都アジスアベバで開かれた。本書はそのまとめで、30編の発表が記録されている。もちろん栽培植物についての発表が多く、スパイス類、オオムギ、コムギ、モロコシ、キビ、テフ (*Eragrostis tef*)、マメ類、コーヒー、飼料、油料、薬用植物について、収集、分類、保護、評価、利用など多方面の議論がなされている。森林やフロラについてもいくつかの発表がある。巻末の索引では土名を学名に対応させてあるので、最近ふえてきたアフリカ植物名についての質問に対応するための一つの参考書となる。(金井弘夫)